



右山 剛 議員

アスベスト対策について

問 朝日新聞は2月21日の3面記事トップで「熊本県宇城市松橋町にあったアスベスト（石綿）生産工場近くで幼少

期を過ごした滋賀県の女性(60)が、石綿が原因とみられるガン・中皮腫と診断されたことがわかった。…」と報じた。Aさんの場合は、中皮腫と診断されたのだから、今国会で成立した「石綿による健康被害の救済に関する法律」を適用されると思うが、いかがか。

助役 松橋地域のアンソフイライトが原因とされたわけではないが、早急に詳細把握に努め、今後の対応を考えているところである。

問 市民の健康不安解消・

自ら胸膜肥厚と向き合う意識の確立というアスベスト健康手帳なるものを交付する考えはないのかお尋ねする。
市長 できれば独自のものをということも想定しながら、老人保健事業で発行されている健康手帳の活用ができないかも含めて研究していきたい。

問 この事業は非常に大切な事業と思っている。市長の構想をお願いする。

福祉バス運行について

市長 来る改正道路運送法を踏まえて、地元事業者と連携した新しい交通システム、家から目的地まで、かつ低料金での送迎等、民間参入を含めた取り組みについても検討したいと考えている。



国際理解教育特区について

問 実施まで問題が山積している。準備不足とか、いろんな視点から検討すべきだと思う。構想がはじめから挫折するようなことがあってはならない。
市長 英語が得意になれば、国語も社会も理科も興味を示していくのではないかと、いうことで、宇城市の教育水準アップにつながる。教育委員会挙げて4月スタートに向けて、万端体制を整えていきたい。

出産適齢期の市民と懇談を、市政に活かしてはどうか

問 18年度の少子化対策の重点は何なのか。

市長 病後児保育の実施、学童保育の増設。母子保健推進員活動と子育て支援センター活動の充実。老朽化した施設の耐力度調査。保育料軽減措置の検討など。さらに、児童福祉関係者や保護者、有識者等による子づくり・子育て環境推進懇話会を設置し、子どもを産み育てる環境づくりの研究とその推進に努めたい。

市の少子化対策について

問 政府の「少子化社会白書」では、今後も少子化の歯止めがかからなければ、国や地域の活力が奪われ、さらに日本

坂田 清一 議員



の社会システムそのものが持続不可能になると警鐘をならしている。市長はどのような基本にして、市の少子化に対処されるのか。
市長 市では、若者の自立を支援する施策、子育ての不安や負担を軽減する施策、次代に伝え育むこと、家庭を築くことの大切さの理解等を基本に、全市民的な取り組みとして、さらに少子化対策を進めるための諸施策を講じていく。

問 国はもちろんだが、子育て

児童館運営の是非について

問 児童館と保育所の運営の問題点について、要は児童館を廃止することではなくて、

今の児童館を保護者の負担を軽減するような正常な運営をしてもらいたい。そして、保育する場合は保育所に入園してもらって、他の子どもたちと同じ保育をしてもらいたいというのが原点にある。児童館で保育を行っている現状は、法律を遵守した措置なのか。

市長 現時点においては、この児童館は違法性があると考えているので、本来の目的に改善をしていくべきだろうと思っている。

本庁舎の有効利用の再利用等を希望する

問 合併して1年そこそこで急ぐ必要もないのではないかと、4年ばかりじっくり考えてからでも遅くないと思うし、住民観点から考えれば、急がなくてもいいんじゃないか、古いものを再利用して使えばいいんじゃないか、いろいろな面が合算した言葉じゃないかと思う。急ぐばかりがあればいいと思うんですよ。まだ合併して1年く

らいしか経っていない。もう少しじっくり考えた行政をやって欲しいと思います。一般の住民の中にもいろいろな人がおるということだけは胸においていただきたい、ただ、黙々と議事堂を建てるのではなく、こういう反対者もおるかということを重々胸において頑張ってもらいたい。

皆さんには1年余り本当にお世話になりました。ありがとうございます。

行政財政の取り組み案について

問 行政財政の取り組み案について、現在の行政の取り組み等をどのような計画に持っていけるか。宇城市の状

前川 克己 議員



況を行政財政の取り組み等をどのような計画に持つて行かれるのか。地方は地方でと政府の進め方を考えるときに、我が宇城市に至っても、これといった産業企業等ないし、農政面に抱っこされた行政は難しいと思う。市長はどのような機構を考えているのか。
問 地方は地方分権の乗り越えて行ける財政行政を作つて欲しいと現状に至つてはあまりにも宇城市というところは先の見えない悪い時代になっている。財政支援が減

少されてくる時は、思い切つた政策をとていかないと、益々これからの時代ということが住民にのしかかってくる時代になってくるのではないかと、思う。
問 去年17年度の委託料というのが7億9千万円ばかりの委託料である。今年の委託料というのが15億円の委託料を、宇城市から出しているが、この委託料について市長はどのような考えを持っているのか。

新幹線待避駅について

問 私のアンケートによれば、やめるべきが88%である。今回の予算に期成会費用1500万円が上がつているが、どれくらいの経済効果があるか。
市長 どれだけの波及効果があるかを1500万円の調査費で検討していく。

農業について

問 松橋町時代、専業農家の半分以上が、破綻先ないしは破綻懸念先になっている。平成14年の資料である。今の状況はどうなっているか。
市長 去年の3月31日で正常先5337件、要注意先381件、破綻懸念先105件、実質破綻先188件破綻先

21件である。
問 購買未集金の金利6%を農協と市で各2%負担する利子補給をして、負債としてではなく、購買未収として残して、農家を生き延びるよう出来ないか。
市長 宇城市以外の1市3町の組合員とのアンバランスもあり、わかりましたとは言えない。

問 市民は、生活保護を受けることに躊躇があり、一生懸命に働いて生活していたが、どうにもならなくなつての生

生活保護について

五嶋 映司 議員



活保護である。サラ金の借金や友人の借金を抱えて生活保護に駆け込んでくる人が多いと思うが、実情はどうか。
福祉部長 従前の債務を持った方がほとんどである。水道料とか、住宅とか、行政が徴収する部分については、考慮するよう、部局内にお願いしている。

問 名瀬市では消費生活課が、多重債務問題も解決するよう努力している。宇城市では分野外だと言われるが、保護世帯にとつて大きな問題

である。行政のあり方として考えて頂きたい。保護費には借金を払う金は入っていない。
新幹線待避駅について

（時間的な有利性を説明）
問 市長が言った事、市民は

問 宇城市がやらないと一緒には出来ない。行政が農業を助ける姿勢を示すことを強く要望する。